第9学年3組 道徳科学習指導案

指導者 井上 奈技子

1 主題 心からの信頼 (友情、信頼)

2 指導の立場

<子どもの実態から>

この時期の子どもは、友達と互いに理解し合い、よりよい関係を築き継続していきたいと願う気持ちが強い一方、友達関係を崩さないよう相手に無批判に同調し、一定の距離をとった関係しかもたない子どももいる。また、異性に対しても、異性に関心がある反面、誤った理解から様々な問題が生じることもある。本学級においても、学習面においては、友達や異性に対して、相手の考えを受け入れ、自分の考えを伝えて理解し合おうと行動できる一方で、生活面では、友達との関係を大切にする余り、自分の本当の思いを伝えられなかったり、友達と違う選択や行動をすることに後ろめたい気持ちを感じたりする子どもも少なくない。

そこで、次のような主題を設定する。

<主題について>

本主題は、友達の思いを尊重したり、互いの幸せを願ったりする心情と態度を育むことをねらっている。ここでは、自分の思いを友達に素直に伝え、互いを理解することのよさに気付かせ、友達との信頼関係についての考えを深めさせることが大切である。そこで、教材「二人の進路選択」を読み、互いの進路選択においてどのような思いがあればよかったのかを基に友達との信頼関係について話し合わせる。このような活動を通して、友達に自分の思いを素直に伝え、互いを理解し、励まし合い、高め合える友情のよさに気付くだろう。

そのような学びを実現するために、指導にあたっては、次の点に留意する。

<指導上の留意点>

- 導入では、日頃の友達との会話や行動を思い起こさせることで、日常の友達との信頼関係 を振り返ることができるようにする。
- 展開では、信頼関係を築くために二人にどのような思いがあればよかったのかについて話し合わせる。そうすることで、双方の立場で多面的・多角的に考え、自分の思いを友達に素直に伝え、相手の気持ちを理解し、互いに尊重し合うことのよさに気付くことができるようにする。
- 終末では、再び、自身の友達との信頼関係を築くためにどのようなことが大切かを振り返らせる。そうすることで、友達にとって自分がどのような存在でありたいかを見つめ直し、 友達の大切さや友情のよさに気付くことができるようにする。

3 教材のあらすじ

「二人の進路選択」

出典:あかつき教育図書「中学生の道徳 3」

仲のよい藍子と健は、同じ高校に進学することを楽しみにしていた。健は自分の目標をもち進路を決めたが、藍子は目標がなく、真剣に自分の将来を考えた末、健には相談せずに違う高校に進路を決める。それを知った健は藍子に苛立ち、藍子は自分の思いを理解してくれない健に不信感を募らせ、夜、健が藍子に電話をかける。

4 指導計画 (主として人との関わりに関すること「友情、信頼」に関する指導)

7 年	主題:信頼できる友達	教材名:アイツ
	真一と夏樹の行動から、互いのよさや	感じたことを話し合う活動を通して、人と
	よりよい関係を築くために大切なこと	に気付き、どのような相手に対しても理解
	を深め、互いに向上することのできる	関係を築いていこうとする態度を育てる。
8 年	主題:信頼と敬愛の念	教材名:アイツとセントバレンタインデー
	真一と夏樹のそれぞれの行動について	話し合い、二人のよりよい関係について考
	えることを通して、異性間においても	互いに理解し合うことの大切さに気付き、
	信頼と敬愛の念をもって友達と接して	いこうとする態度を育てる。
	主題:心からの信頼	教材名:二人の進路選択
9 年	信頼関係を築くために二人にどのよう	うな思いがあればよかったのかについて話
(本時)	し合う活動を通して、自分の気持ちを	素直に伝え、互いに理解することのよさに
	気付き、友達の思いを尊重したり、互い	い の幸せを願ったりする心情と態度を育む。

5 本時案

- (1) ねらい 信頼関係を築くために二人にどのような思いがあればよかったのかについて 話し合う活動を通して、自分の気持ちを素直に伝え、互いに理解することのよさ に気付き、友達の思いを尊重したり、互いの幸せを願ったりする心情と態度を育む。
- (2) 準備 挿絵、ネームカード、ワークシート
- (3) 学習の展開

学習活動・内容(発問) 予想される子どもの反応	分 10
 合う ・友達との信頼関係において大切にしていることを達を励ましたり、応援したりすることで、日常の友達との信頼関係を振り返らせることができるようにする。 2 範読を聞き、問いを変流する・2人が進路選択についてすれ違ったのはなぜかて信頼関係を構築する難しさ。 3 信頼関係を築くためにどのような思いがあればよかったかにどのような思いがあればよかったかいて話し合う す自分も夢に近づきたいと素直に伝えたらよればよかったのかについて話し合う イ 健は藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の考えを尊重するという思いをもっていればよかったとしても互いにないあったとしても互いに 	10
・友達との信頼関係において大切にしていること 添うこと 方達を励ましたり、応援したりすること で、日常の友達との信頼関係を振り返らせることができるようにする。 2 範読を聞き、問いを交流する ア 進路選択についてすれ違いを確認することで、二人に生じている問題に気付くことで、二人に生じている問題に気付くことができるようにする。 ・ 2人が進路選択についてすで情頼関係を構築するがありました。 に互いにどのような思がさればよかったかいたかいできるようにする。 3 信頼関係を築くためにどのような思いがあればよかったかいにどのような思いがあればよかったのかについて話し合う ・ 藍子と健の気持ちを考えないたと思うよいたと思うよいたと思うよいたと思うよいたと思うよいたと思うよいたと思うよいたと思うようにする。 4 健は藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の進路変更にする。 ・ すれ違いを経て二人の信頼関係は高まったかを問いをもっていればよかったとしても互いにないたととで、たとえすれ違いがあったとしても互いに	10
いて大切にしていること ウ 友達を励ましたり、応援したりすること 係を振り返らせることができるようにする。 2 範読を聞き、問いを交流する ア 進路選択についてすれ違いを確認することで、二人に生で大人に生物できるようにする。 ・2人が進路選択について信頼関係を構築する難しさ に互いにどのような思いがあればよかったかかけるいと素直に伝えたらよればよかったのかについて話し合う ・ 藍子と健の気持ちを考えるさせることで、二人に共通する思いに気付くことができるようにする。 1 健は藍子の進路変更に正するの地できるようにする。 ・ 本の地のすれ違いを確認することで、二人に生まることで、二人に生きないがあればよかったからままするという思いまするという思いまするようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信頼関係は高まったかを問いまするという思いまするという思いまするとで、たとえずれ違いがあったとしても互いになわる。	10
と 援したりすること きるようにする。 2 範読を聞き、問いを交流する ア 進路選択についてすれ違いを確認することで、二人に生れ違ったのはなぜかれ違ったのはなぜかれ違ったのはなぜかれ違ったのような思いだめにどのような思いがあればよかったかかりできるようにする。いがあればよかったからにどのような思いがあればよかったかがあればよかったのかについて話し合う ・ 藍子と健の気持ちを考えたさせることで、二人に共通する思いに気付くことができるようにする。なせることで、二人に共通する思いに気付くことができるようにする。では藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の考えたまないう思いを経て二人の信頼関係は高まったかを問いをもっていればよかったとしても互いに	10
2 範読を聞き、問いを 交流する ア 進路選択についてす れ違ったのはなぜか イ 信頼関係を築くため で信頼関係を構築する 難しさ ・ 互いの想いのすれ違いを 確認することで、二人に生 じている問題に気付くこと ができるようにする。 3 信頼関係を築くため にどのような思いがあればよかったか にどのような思いがあればよかったか いと素直に伝えたらよ ればよかったのかについてが いて話し合う ・ 藍子と健の気持ちを考え させることで、二人に共通 する思いに気付くことができるようにする。 ・ する思いに気付くことができるようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信 を尊重するという思い をもっていればよかったとしても互いに	10
交流する れ違ったのはなぜか 確認することで、二人に生じている問題に気付くことで、高期関係を集くために互いにどのような思いがあればよかったかできるようにする。 3 信頼関係を築くためにどのような思いがあればよかったかいできるようにする。いたと思うよいではよかったのかについて話し合う ・ 藍子と健の気持ちを考えませることで、二人に共通する思いに気付くことができるようにする。 4 健は藍子の進路変更に耳を傾け、藍子の考えを尊重するという思いをもっていればよかったかを問いをもっていればよかったとしても互いに 5 できるようにする。 6 では、正人に共通なおりまする思いに気付くことができるようにする。 7 に耳を傾け、藍子の考えを可能な変更にするという思いをもっていればよかったかを問いなもっていればよかったとしても互いに	
 ・2人が進路選択について信頼関係を構築する	
 で信頼関係を構築する 難しさ いがあればよかったか ア 自分も夢に近づきた にどのような思いがあ ればよかったのかにつ いて話し合う イ 健は藍子の進路変更 に耳を傾け、藍子の考え きるようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信を尊重するという思い をもっていればよかっ 返すことで、たとえすれ違 れがあったとしても互いに 	
難しさ 3 信頼関係を築くため ア 自分も夢に近づきた にどのような思いがあ ればよかったのかにつ いて話し合う いて話し合う ・ 健は藍子の進路変更 さるようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信を尊重するという思い をもっていればよかった 返すことで、たとえすれ違 たね いがあったとしても互いに	
3 信頼関係を築くため	
にどのような思いがあ ればよかったのかにつ いて話し合う いて話し合う に耳を傾け、藍子の考え を尊重するという思い をもっていればよかっ たね にどのような思いがあ かったと思うよ する思いに気付くことがで きるようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信 頼関係は高まったかを問い 返すことで、たとえすれ違 いがあったとしても互いに	
ればよかったのかにつ かったと思うよ する思いに気付くことがでいて話し合う イ 健は藍子の進路変更 さるようにする。 ・ すれ違いを経て二人の信を尊重するという思い をもっていればよかっ 返すことで、たとえすれ違 たね いがあったとしても互いに	
いて話し合う イ 健は藍子の進路変更 きるようにする。 に耳を傾け、藍子の考え ・ すれ違いを経て二人の信 を尊重するという思い	
に耳を傾け、藍子の考え ・ すれ違いを経て二人の信を尊重するという思い 頼関係は高まったかを問いをもっていればよかっ 返すことで、たとえすれ違たね いがあったとしても互いに	
を尊重するという思い 頼関係は高まったかを問い をもっていればよかっ 返すことで、たとえすれ違 たね いがあったとしても互いに	
をもっていればよかっ 返すことで、たとえすれ違 たね いがあったとしても互いに	
たねいがあったとしても互いに	
ウ 互いに一番の友達と 向き合うことができれば信	
して夢を応援し合う思 頼を深めることにつながる	
いが必要だね ことに気付くことができる	
ようにする。	40
4 友達との信頼関係に ア 相手の考えを尊重し、 ・ 初めの発問に立ち返るこ	
ついて自分の意見をま 困っていたら相談した とで、友達との信頼関係に	
とめる り、助け合えたりできる ついての見方や考え方を深	
・友情、信頼のよさ とよいと思ったよ めることができるようにす	
・自分と友達とのよりよ イ 友達の夢や可能性を る。	
い関係の構築において 信じて応援することが	
大切にしたいこと 大切だと分かったよ	50

(4) 評価規準と方法

自分の気持ちを素直に伝え、互いに理解することのよさに気付き、友達の思いを尊重したり、互いの幸せを願ったりする心情や態度について、今までの自己の在り方を振り返ったり、今後の自己の在り方を考えたりしようとしていたか、発言やノートの記述からみとる。